

図書館だより

No.19

●人々の「学び」を支える図書館の大切さ

学術交流担当副学長 杉村 美紀

●教えて! ソフィアンくん ～第2回 雑誌って何??～

●所蔵資料紹介

●図書選定委員お薦めの本

文学部新聞学科助教 柴野 京子

●盗難に注意! 図書館内の盗難注意!



人々の「学び」を支える図書館の大切さ

学術交流担当副学長
杉村 美紀



秋学期が始まり間もないある日、4時限目の授業が終わり、夕焼けせまる頃、学外での研究会に行こうとメインストリートを急いでいたところ、ふと前を歩く小柄なスーツ姿の女性の姿が目にとまった。片手には刺繍のはいった素敵なバッグ、反対側の手には書類や本が入っているらしい袋を重そうに下げながら急ぎ足で歩いている。その後ろ姿をみて、大学院時代の恩師の箕浦康子先生(現、お茶の水女子大学名誉教授)ではと思った。しかしながら、箕浦先生がどうしてこのような時間にこの四ツ谷キャンパスを歩いておられるのだろうか、しかも大学から帰ろうと北門に向う人の流れのなかにおられるのかと思い、人違いかと思いながら、そっと横顔をうかがうと、やはり箕浦先生である。私は思わず、「先生」と声をかけた。すると、いつもと変わらぬ少し関西訛りがはいた口調で、「あら、杉村さん」と言ってくださった。私が「先生、どうしてここにおられるのですか。」と尋ねると、「今日は上智の図書館で調べものをしていたのよ。」とおっしゃった。「え? 調べものですか? 御研究の資料か何か探しておられたのですか?」とさらに続けて尋ねると、「そうよ。私は上智の図書館が使い勝手が良くてとても気に入っていてね。前に非常勤講師を務めた時から利用させてもらっていて、今は図書館の『館友会員』になってよく使わせてもらっているのよ。」とおっしゃった。東京大学を定年退職後、お茶の水女子大学にお勤めになられ、今はお茶大も退職され、悠々自適にお過ごしになっておられると思いきや、70歳代の半ばを過ぎられた今も、引き続き精力的に研究が続けられている。そのことだけでも素晴らしいことだと思っていたが、ましてやこうしてスーツに身を固め、図書館で勉強しておられるのを知り、本当に頭が下がる思いであった。

恩師によれば、上智の図書館の素晴らしさは、何よりもまず、開架式であること、次いで専門書や専門雑誌がよくそろっていることにあるという。先生の御研究分野は、

異文化の中での人々の生き方を丹念に観察・記述し分析するエスノグラフィー研究で、自宅近くの区立図書館では入手や閲覧が難しい専門分野関係の資料も検索が可能であるという。また、図書館の中が、比較的落ち着いて勉強しやすい環境が整っているということも、四ツ谷駅を通過するときに「ちょっと立ち寄り」ことができるポイントになっているということであった。ただし、近年専門雑誌の多くが電子版のみとなり、大学の成員ではない「館友会員」は閲覧できなくなり、その点が残念であるというご意見もちょうだいした。

大学の図書館が行っている様々なサービス業務については、まだまだ知られていない活動も多い。これまでよく言われている通り、まさに図書館は研究教育の情報拠点であると同時に、最近では個人やグループによるラーニングコモンズの利用のように、新たな学びの場を提供する役目も果たしている。その対象は、まずは当該大学の学生や教職員であるわけだが、恩師の例にみるように、大学と何らかのご縁があり「館友会員」となってくださっている方々の利用もまた、人の学びを支える図書館の大切な顔であろう。本学は「他者のために、他者とともに」というミッションを掲げ、2013年には創立100周年を迎え、「叡智が世界をつなぐ」という思いを新たにした。顧みれば、大学図書館の果たしてきた役割は、まさに、大学の役割である「知の創成」を支えるとともに、先人が積み上げてきた様々な知的財産を大学の内外に広く伝えること、さらにはその場に集う人々に新たな学術研究や教育活動の場を提供することであり、それはまさに本学のミッションそのものに他ならない。恩師のように、本学の図書館を気に入ってくださっているのは、まさにそうした図書館が作り出す「知のネットワーク」に思いを寄せてくださっているからであろう。

逆に言えば、「知の探究」の機会を提供している図書館の存在があるからこそ、恩師を含めて様々な人々の「学び」に対する思いに大学としていつでも応えることができるのだと思う。本学の図書館には、現在常勤の方、嘱託の方など合わせて約40名の方々が勤務してくださっているが、そのように思うと、図書館のゲートがいつも開いていて、職員の方々がいつも丁寧に親切に対応してくださるという何気ない日常の風景が、当たり前のように貴重なことであるかと思う。図書館業務を支えてくださっているお一人お一人に心から感謝申し上げたい。



教えて! Q&A ソフィアンくん



～第2回 雑誌って何??～



Q. 旅行雑誌が読みたいのですが、図書館にありますか?

A. う～ん、図書館に旅行雑誌はないなあ。
大学図書館にある雑誌は、みんなが思い浮かべる雑誌とは、ちょっと違うんだよね。
今回は、雑誌についての疑問を解決していこうね!

1. 雑誌の種類



雑誌には大きく分けて、次のような種類があるよ!

1. 一般雑誌 (Magazine)・・・書店などで目にする、スポーツ雑誌やファッション雑誌などの雑誌で、学術性を問わず、実用性や娯楽性が高いもの。公共図書館では、一般雑誌を多く所蔵している。【例】Aera、newsweek、文藝春秋など
2. 学術雑誌 (Journal)・・・研究者の発表の場であり、査読と呼ばれる検査を通った論文が掲載されている。読者は限定され、基本的には市販されていない。大学図書館にある雑誌の多くはこちらに該当する。大学などが定期的に出す論文集、いわゆる『紀要』も学術雑誌の一つ。【例】Nature、science、上智大学教育学論集など

2. 配架場所

注意!! 最新号とバックナンバーで配架されている場所が違うよ!



最新号から半年ぐらい前の雑誌が読みたいときには、1階雑誌コーナーへ(理工系雑誌は2階)。OPACで検索するときには、新着配架場所をチェック。BOXNO.が請求記号の代わりです。
※新着配架場所に『KIYO3F』と表示されるときには、3階紀要書庫にあります。

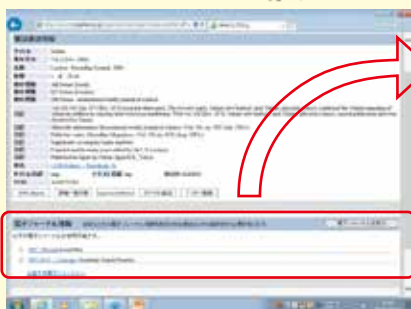
雑誌のバックナンバーは、何冊かにまとめて製本されます。

製本されると、背表紙に請求記号が付与されます。製本された雑誌は3階雑誌書庫へ(理工系雑誌は2階)。一部、2号館集密書庫にあるものもあります。
※2号館集密書庫にある場合は、OPAC検索画面から申込表を印刷し、1階貸出カウンターで手続きをしてください。

3. 雑誌の形態



雑誌には、冊子体とオンライン上で読むことができる電子ジャーナルがあるよ!



OPACの検索結果画面に、『電子ジャーナル情報』が表示されるときには、電子ジャーナルで記事を読むことができますよ。電子ジャーナルについては、
e-Resources access page
<http://ax5kr6fu7r.search.serialssolutions.com/>
からも検索できます!

雑誌も、図書資料と同じように、レポートや論文作成には欠かせない資料です! 冊子体と電子資料をうまく使いこなして、役立ててくださいね!



所蔵資料紹介

上智大学図書館では多くの貴重資料を所蔵しています。

普段はあまり目にする事の出来ない貴重資料1点を今回はご紹介します。



Biblia Das ist/ Die gantze Heylige Schrift/ Teutsch. D. Mart. Lut. Sampt einem Register/ vnd schönen Figuren.

『フォイエルアーベント聖書（フランクフルト版絵入りルター聖書）』と日本語では表現しています。

マルティン・ルター（Martin Luther）は人々が読みやすいように聖書をラテン語からドイツ語に翻訳しました。その翻訳本に、Virgil Solisという画家の挿絵（版画）を収録し1560年に出版されたのがこの聖書です。旧約聖書と新約聖書の完本です。



タイトルページ一部拡大



旧約聖書のノアの箱舟の場面です。
ちょっと見えにくいかもしれませんが、右上にオリーブの葉をくわえた白いはとが描かれています。

こちらは旧約聖書のタイトルページ



D.Mart.Lut とはMartin Lutherの事！
ローマ数字でMは1000、Dは500、Lは50、Xは10をあらわしますので、1560年の出版ということがわかります

2015年春

展示スペースにて展示する予定です。

図書選定委員お薦めの本

文学部新聞学科助教 柴野 京子



出版に関する講義を担当しているので、ときどき「どんな本がおすすめですか？」と訊かれますが、これほど難しい質問はありません。内容もさることながら、本の読み方は千差万別です。寝食を忘れて本の海に溺れていく人もあれば、効率よく「速読」したい人もいます。たとえ同じ本であっても、同じように読まれるとは限らないのです。

『時間のかかる読書』は一種の読書論ですが、古今東西、さまざまな教養人が書き記してきたそれとはまったく違ってきます。まず、一読してためになることはまるで書いてありません。副題にはモダニズム文学の旗手「横光利一」の名がありますが、文学に興味がなくとも、横光を知らなくともほぼ関係ないと言えるでしょう。なぜなら、この本の著者である劇作家の宮沢章夫の意図はただひとつ、横光利一の『機械』という作品を、非常識なほど時間をかけて読む、という点にあるからです。

「なかなか読み出さない」「できるだけ長いあいだ読み続ける」。ふたつの方針をたてた著者は、この思いつきを実現します。その結果、本来は一時間もあれば読めてしまう中編小説に、何と11年の歳月をかけることになるのです。

いきなりぽんと置かれたような題名が印象的で

ある。とてもいい。だが、いくら二文字の言葉をそこにぽんと置いたとしても『配膳』ではだめだろう。あと、『漆喰』も。なんだか、書いても仕方がないことを書いてしまったような気がする。(P.28)

上記は『機械』というタイトルについて述べた冒頭の一節ですが、「なかなか」どころか読み出す気配すらありません。この壮大な寄り道読書の理由を、著者は「特別な冗談」とあとがきに記しています。ただひたすらぐずぐず読むこと以外に、意味はないのです。しかしその「ぐずぐず」につきあっていくと、この馬鹿げたたくらみが、次第に愉快に思えてきます。そして、自分がまったく思いがけないようなやり方で、横光利一の作品と接しているのに気づきます。それは「特別」なことです。

この本を読むのに、たいした知識はいりません。口絵の部分には『機械』の全文も掲載されています。ただし、センスと、好奇心と、ほんの少しの根気は必要です。もっとも、その素質は読書に限ったことではないのですけれど。

『時間のかかる読書—横光利一を巡る素晴らしきぐずぐず』 (宮沢章夫、河出書房新社、2009年)

>> 図書館所蔵
学部地下2階
913.6:Y778k:Mi893



盗難に注意！

図書館内の盗難注意！

図書館内で残念ながら置き引きが多発しています。貴重品を盗まれないよう注意してください。サイフ等の貴重品をいれたまま荷物を置きっぱなしは危険です。荷物から離れる時は、友人に一声かけるなど、荷物を見張ってもらいましょう。

寝ている間にもあなたの荷物が狙われています。ちょっとした際に貴重品が盗まれます。特にサイフ等の貴重品は身につけて、十分注意しましょう。置き引きを未然に防ぐ方法は、**荷物からはなれない・目をはなさない**ことです。

叡智が世界をつなぐ



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

上智大学図書館だより No. 19

発行所 上智大学図書館
〒102-8554
東京都千代田区紀尾井町 7-1
TEL : 03-3238-3510
FAX : 03-3238-3139
発行日 2015年1月1日
印刷 三鈴印刷株式会社
TEL : 03-5276-0811